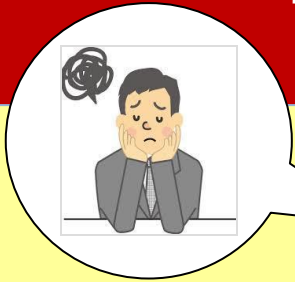


研究テーマやめざす授業像を共有し、

「チーム学校」で授業改善に取り組むことの難しさを、

どう乗り越えていけばよいのか???

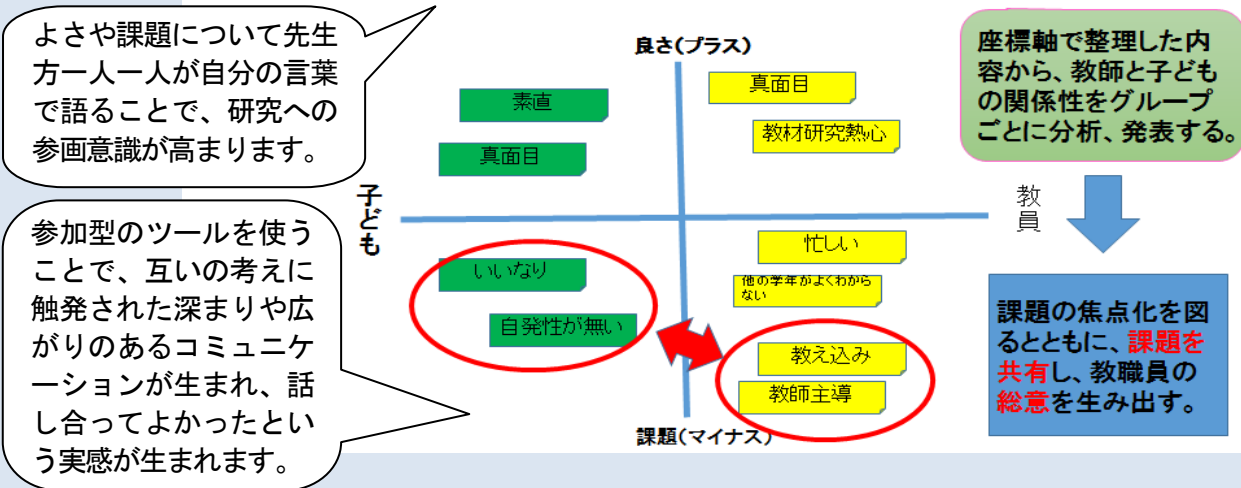


- 「何をするのか」から研究が始まり、「何が課題なのか」がやがて見えにくくなっていってしまう。
- めざす授業づくりについて全職員で共有したはずなのに、やがてそれぞれのスタイルになっていってしまう。
- 協議を深める場としての研究推進委員会のはずなのに、メンバーはみな多忙なため、やがて集まれるメンバーが集まったの短時間での会になってしまう。

STEP 1

全職員でよさや課題を明確にし、「チーム学校」の総意に基づいた研究をスタートする!!!

課題を分析し、全職員で共有する



よさや課題について先生方一人一人が自分の言葉で語ることで、研究への参画意識が高まります。

参加型のツールを使うことで、互いの考えに触発された深まりや広がりのあるコミュニケーションが生まれ、話し合っってよかったという実感が生まれます。

STEP 2

機動力のある研究推進チームをコーディネートする!!!

授業研究会や校内研修会の企画・運営・内容等についての、見通しや振り返りの協議が、複数のメンバーで繰り返されることで、PDCAがよく機能した深まりのある研究が推進されます。

研究主任の一人仕事にならないよう「協働性と専門性の高さ」「フットワークの軽さ」を重視し、研究主任、管理職を含むブレインチームを少人数で組織することで、次世代育成にもつながります。

STEP 3

校内授業研究会で、先生方の「出番」を設定する!!!

校内授業研究会を、すべての先生にとって主体的な場にコーディネートすることで、「チーム学校」としての機能が活性化します。

「チーム学校」のもつ資源や特質を生かし、メンバーのよさを引き出すしかけをすることが、研究推進を支える協働性を高めます。初任者研修やフォローアップ研修対象者のPP提案、学級で使えるアイスブレイキング提案なども工夫できます。

すべての子供に学力向上を保障するためには、すべての先生によってどの学級・授業においても授業改善が推進されることが必要です。「チーム学校」による授業改善がエネルギーをもって推進されるためには、校内研究会を先生方一人一人にとっての主体的な場に設定すること、協働や創造のもたらす深まりや広がりを実感することのできるしかけを工夫することが求められます。